

展示室1 イギリス美術のイギリス性

18世紀は、イギリス美術がヨーロッパ大陸とは異なる「イギリスらしさ」を追求した転換期でした。それまでイギリスは外国から来た画家たちが勢力をふるい、国内の画家たちは活躍の場を失っていました。

その停滞を打開したのがウィリアム・ホガース（1697-1764）です。彼はイギリスが新教国であり、教会から宗教画制作の依頼が少ないことを逆にとり、人間観察によって生み出される肖像画や風刺画に活路を見いだしたのです。

そして、鋭い観察眼は風景にも向けられました。霧が多く、天候の移ろいやすいイギリス独自の風景を、ターナー（1775-1851）、コンスタブル（1776-1837）らがとらえようとしてきました。

独自の展開をみせたイギリス美術をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ホガース	美の分析Ⅰ	1753	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	美の分析Ⅱ	1753	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	『当世風結婚』（6点組）	1745	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60頃	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	キティ・フィッシャーの肖像習作	1760-62頃	油彩・キャンバス
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790代初頭	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-46頃	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	エディスタン灯台	1824	メゾチント・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カレー沖の釣船（ドーバー海峡）	1830	メゾチント・紙
ジョン・コンスタブル	虹、ソールズベリー大聖堂	1834-7	メゾチント・紙
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス

展示室2 美の明治：工部美術学校と東京美術学校

明治新政府が設置した工部美術学校は、西欧の製図や印刷の技術を学ぶ、実用を目的とした美術教育を目指していました。西洋画の指導を任されたイタリア人画家・フォンタネージは、基礎的な技法を教えると同時に、写實的に描くだけでなく、情趣を効果的に伝えることの大切さを説き、日本の西洋画芸術の萌芽を促します。一方、明治20年代末に設置された東京美術学校西洋画科では、日清戦争後の自由主義や個人主義の風潮に後押しされて、内面を表現する芸術性を重視した考え方が主流となってゆきました。

ここでは、工部美術学校の画学生たちと東京美術学校の西洋画科教師たちの作品を中心に、日本近代西洋画の流れを概観します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
伝 岡村 政子	板垣伯之肖像 ※『時事新報』明治24年6月8日第3044号付録 信陽堂（石印）	1891（明治24）	石版・紙
小山 正太郎	日本パノラマ館日清戦争図のためのパノラマ図解		木版、手彩色・紙 大谷芳久氏寄贈
小山 正太郎	庚申山、山寺	1884（明治17）頃	鉛筆・紙
小山 正太郎	「両国烟火」	1890（明治23）	石版・紙
小山 正太郎	「品川湾秋月」	1890（明治23）	石版・紙
小山 正太郎	「愛宕山眺望」	1890（明治23）	石版・紙
守住 勇魚	住吉神社之真景	1879（明治12）頃	石版・紙
疋田 敬蔵	北海道小樽港有幌之景	1881（明治14）	石版・紙
岡村 政子	仙女伏姫幽窟において読経の図	1889（明治22）	石版、手彩色・紙
岡村 政子	みなつる姫 ※酒井鈴子（石画者）信陽堂（印刷）	1889（明治22）	石版、手彩色・紙
浅井 忠	綾瀬川付近	1885（明治18）	墨・紙
浅井 忠	収穫	1893（明治26）	油彩・紙、板
五姓田 義松	婦人像	1871（明治4）頃	油彩・キャンバス
山本 芳翠	園田銚像	1885（明治18）	油彩・キャンバス
山本 芳翠	菊と蕪と蝸牛		油彩・キャンバス、板

作者名	作品名	制作年	技法・材質
黒田 清輝	東久世伯肖像エスキース	1894 (明治 27)	油彩・キャンバス
黒田 清輝	旅順砲台突貫之圖 ※合田清 (刻) 『北国新聞』 明治 31 年 12 月 1 日第 1926 号付録	1898 (明治 31)	木口木版・紙
小坂 象堂	釈迦と賤婦之図	1895-99 (明治 28-32) 頃	岩絵具・絹/軸
岡田 三郎助	ゆびわ ※東洋印刷 (石印) 『大阪時事新報』 明治 41 年 1 月 1 日第 1023 号付録	1908 (明治 41)	石版・紙
和田 英作	こだま ※ 『時事新報』 明治 37 年 1 月 1 日第 7243 号付録	1904 (明治 37)	石版・紙
和田 英作	上総風景	1897 (明治 30)	油彩・キャンバス
藤島 武二	がくの花	1901 (明治 34)	油彩・キャンバス
小林 万吾	朽葉の袖	1907 (明治 40)	油彩・キャンバス
松田 義之	樹蔭	1937 (昭和 12)	エッチング・紙
南 薫造	郊外の小道		水彩・紙
南 薫造	京城、景福宮建春門	1925 (大正 14)	油彩・板
安井 曾太郎	初秋の北京	1944 (昭和 19)	油彩・キャンバス
梅原 龍三郎	静物		油彩・キャンバス

展示室 3 大集合！形が楽しい絵画たち

戦中期から現代まで激しく複雑に変化してきた社会情勢は、芸術家に美術そのものの在り方を問いただし、現実世界の再現という従来の枠組みを超えた、先鋭的な表現が次々と生み出されました。芸術の中心フランス、そしてアメリカで登場したシュールレアリスム (超現実主義) や抽象表現主義などの最新の美術潮流は、日本やイギリスにおいても個性豊かに発展します。

重層的な線や色面の重なり、あるいは単純化されたフォルムなどで描かれた作品には、自身の内面世界、社会への言い知れぬ不安、さらには絵画という二次元上での表現の可能性を追求する姿勢が表れています。日本とイギリスの絵画から、形の妙を感じさせる作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ヴィクター・パスモア	ワインレッド (version 1)	1964	レリーフペインティング、パネル・紙
ウィリアム・スコット	水さしの詩 No.14	1980	油彩・キャンバス (株)カサハラ画廊寄贈
ベン・ニコルソン	水差しと楕円形	1973	オイルウォッシュ、鉛筆・紙、木製ボード
リチャード・ゴーマン	フラット (『ナイン・ペインティングス』より)	2000	油彩・キャンバス
難波田 龍起	建物の構成	1954 (昭和 29)	油彩・キャンバス
古賀 春江	蝸牛のいる田舎	1928 (昭和 3)	油彩・キャンバス
菅井 汲	黒	1959 (昭和 34)	油彩・キャンバス
勝呂 忠	作品 (イーD)	1962 (昭和 37)	油彩、樹脂・キャンバス 勝呂忠氏寄贈
平澤 熊一	発芽	1938 (昭和 13) 頃	油彩・板 平澤三之助氏寄贈
平澤 熊一	建築物と月	1950 年代	油彩・キャンバス 平澤三之助氏寄贈
今西 中通	抽象	1936-38 (昭和 11-13) 頃	水彩・紙
瑛九	作品 10	1939 (昭和 14)	エアブラシ、水彩・紙
瑛九	作品 1	1935 (昭和 10)	水彩・紙
瑛九	作品 23	1959 (昭和 34)	インク、フェルトペン、カットアウト・紙
瑛九	作品 4		クレヨン・紙
池田 満寿夫	コラージュ	1968 (昭和 43)	コラージュ、グワッシュ・紙
駒井 哲郎	コレクション・ド・ラ・メール 1		水彩・紙
駒井 哲郎	コレクション・ド・ラ・メール 2		水彩・紙
鶴岡 政男	ひとりぼっち		パステル、色鉛筆・紙
山口 長男	コラージュ I	1950-51 (昭和 25-26)	コラージュ・紙
山口 長男	コラージュ II	1950-51 (昭和 25-26)	コラージュ・紙
草間 彌生	無題	1954 (昭和 29)	水彩、インク・紙
佐藤 昭一	廃坑	1956 (昭和 31)	油彩・キャンバス 佐藤昭一氏寄贈
鎌田 正蔵	作品		油彩・キャンバス 鎌田正蔵氏寄贈
白木 正一	ポイント	1955 (昭和 30)	油彩、エナメル・キャンバス
野地 正記	○の顔	1975-77 (昭和 50-52)	水彩・紙 野地友子氏寄贈
野地 正記	遊び	1968-70 (昭和 43-45)	水彩・紙 野地友子氏寄贈
池田 龍雄	化物の系譜シリーズ『像』	1956 (昭和 31)	インク、コンテ・紙

展示室4-① 版画で旅する日本

山や海といった美しい自然の風景、歴史に彩られた神社仏閣などは芸術家たちに大きなインスピレーションを与えてきました。絵画作品はさることながら、版画においても浮世絵の「名所絵」をはじめとして、さまざまな名所風景が描かれてきました。江戸時代後期には西洋から銅版画の技術が伝えられ、江戸や京都の名所が描かれた版画は旅の土産物としての役割を果たすようになります。

生活様式が変わりつつある現在、私たちはなかなか遠くへ出かける「旅」ができないでいます。美術館の中では存分に「旅」を楽しんでいただけるよう、ここでは明治の銅版画を中心に、版画の中に描き出された各地の風景をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
梅川 夏北	大日本國掌覧全圖	1846 (弘化3)	銅版・紙	
松本 保居	大日本豊秋津洲一望之圖		銅版・紙	
松田 龍山	大日本與地略圖		銅版・紙	
岡田 春燈齋	江戸上野東叡山花盛		銅版・紙	
岡田 春燈齋	江戸両国橋大納涼		銅版・紙	
岡田 春燈齋	江戸名所 水道橋雪之景		銅版・紙	
橋本 澄月	江戸神田明神社内風景		銅版・紙	
橋本 澄月	江戸上野東叡山花見之景		銅版・紙	
松田 緑山	東京佃嶋遠望商船入津川蒸気出帆之圖		銅版・紙	
岡田 春燈齋	江戸八勝景		銅版・紙	
岡田 春燈齋	祇園石鳥居		銅版・紙	
松田 緑山	東本願寺御堂風景		銅版・紙	
松田 緑山	音羽山清水寺之春細図		銅版・紙	
岡田 春燈齋	太秦廣隆寺		銅版・紙	
松本 保居	洛北金閣寺		銅版・紙	
石田 有年	洛北銀閣寺 (『京都名所五十景』より)	1891 (明治24)	銅版・紙	
松田 龍山	日本三景其一奥州松島風景	1863 (文久3)	銅版・紙	
松田 緑山	陸奥東海金華山正面圖	1865 (元治2)	銅版・紙	
岡田 春燈齋	相州鎌倉鶴ヶ岡八幡宮社前之風景		銅版・紙	
岡田 春燈齋	相州江之嶋風景		銅版・紙	
打田 霞山	大阪名所天保山之風景		銅版・紙	
松田 緑山	高野山八勝景		銅版・紙	
松田 緑山	比叡山四明嶽ヨリ琵琶湖八勝一望圖		銅版・紙	
岡田 春燈齋	伊勢古市踊之図		銅版・紙	
玄々堂	伊勢太々御神楽之濫觴		銅版・紙	
太田 節次	江の島真景	1893 (明治26)	石版・手彩色・紙	
村井 熊之助	亀井戸天満宮真景 (『東京名所』(有山定次郎版)より)	1883 (明治16)	石版・紙	
作者不詳	谷中天王寺景 (『東京名所』(渡辺忠久版)より)	1890 (明治23)	石版・紙	
作者不詳	赤坂御所 (『東京名所』(渡辺忠久版)より)	1890 (明治23)	石版・紙	
福宮 源治郎	東京上野公園之景	1885 (明治18)	石版・手彩色・紙	
二神 純孝	ニコライ堂 (『西洋画譜』(第一秩) 東京真景 (第一)より)	1890 (明治23)	石版・紙	
水野 孤芳	日光神橋之図	1887 (明治20)	石版・手彩色・紙	
作者不詳	日光東照宮鳥居 (『日光名所』(渡辺忠久版)より)	1891 (明治24)	石版・紙	
作者不詳	日光夜叉門 (『日光名所』(渡辺忠久版)より)	1891 (明治24)	石版・紙	
蔭山 文僊	尾張国名古屋城真景	1879 (明治12)	石版・紙	
ウィルヘルム・ハイネ	下田浴場図 (『ペルリ日本遠征記』挿絵)	1856 (安政3)	石版・紙	
石井 柏亭	加賀山中温泉 (『日本風景版画 第一集 北陸之部』より)	1917 (大正6)	木版・紙/ポートフォリオ	
石井 柏亭	能登和倉温泉 (『日本風景版画 第一集 北陸之部』より)	1917 (大正6)	木版・紙/ポートフォリオ	
前川 千帆	別府明鑾温泉 (『HANGA 第三輯』より)	1924 (大正13)	木版・紙/ポートフォリオ	
前川 千帆	温泉 (『白と黒 第四号』)	1937 (昭和12)	木版・紙/本	
武藤 完一	別府温泉 (『版芸術 創刊号』)	1932 (昭和7)	木版・紙/本	
織田 一磨	本郷龍岡町 (『東京風景』より)	1917 (大正6)	リトグラフ・紙	
畦地 梅太郎	上高地		木版・紙	
小杉 未醒	首里古城 (『日本風景版画 第七集 琉球之部』より)	1918 (大正7)	木版・紙/ポートフォリオ	
福田 利秋	金沢兼六園	1988 (昭和63)	木版・紙	福田利秋氏寄贈
福田 利秋	室蘭にて	1960 (昭和35)	木版・紙	福田利秋氏寄贈
秋山 泰計	成増風景	1963 (昭和38)	木版・紙	1987年秋山泰計遺作管理会刷

展示室4-② 暮らしのなかの工芸

機能性が追及された美しい器や道具たちは、それぞれの用途で活躍するとともに、私たちの暮らしを豊かに彩ってくれます。

郡山市出身のガラス工芸家である佐藤潤四郎（1907-1988）は、手になじむかたちにこだわったぬくもりあるデザインと、丁寧な手仕事による味わい深い作品を数多く生み出しました。クリストファー・ドレッサー（1834-1904）は、モダン・デザインの先駆けとなる重要な仕事を遺したイギリスの工業デザイナーです。機能美と造形美が調和する洗練されたデザインの製品を、富裕層のみならず広く一般に普及させることにも貢献しました。

日々の生活空間を演出する作品の数々を、使い心地を想像しつつお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
佐藤 潤四郎	ステンドグラス・仏足跡		ガラス、鉄
佐藤 潤四郎	ステンドグラス・窓		ガラス、鉄
クリストファー・ドレッサー	ケトルとスタンド		真鍮、銅
クリストファー・ドレッサー	緑釉サラダボウル（サーバー付き）	1879-82 頃	陶器、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	塩入れとスプーン	1884	銀
クリストファー・ドレッサー	シュガー・バスケット（穴あきふるい付き）	1884	金属、銀メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（青海波）	1879-82 頃	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	彩色金彩ロータス文大皿		陶器
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレットジャグ（ぶどう酒用容器）		ガラス、金属、電気メッキ
佐藤 潤四郎	タンブラー（5点）		ガラス/型吹ほか
佐藤 潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ
佐藤 潤四郎	花器・一寸考えて		ガラス/宙吹
佐藤 潤四郎	花器・何をしようか	1986（昭和 61）	ガラス/宙吹
佐藤 潤四郎	瓶・ガラスの神様		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ
各務 鑛三	クリスタル花瓶《鱗影》	1970（昭和 45）頃	ガラス/宙吹・気泡封入、グラヴェール
吉田 丈夫	クリスタル瓶《瓢》		ガラス/宙吹
クリストファー・ドレッサー	花瓶（緑色クルーザ・ガラス）		ガラス
クリストファー・ドレッサー	花瓶（赤色クルーザ・ガラス）		ガラス
クリストファー・ドレッサー	ローマン瓶（緑色クルーザ・ガラス）		ガラス
クリストファー・ドレッサー	緑釉植物刻文花瓶	1892-95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉把手付花瓶	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉刻文花瓶	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	ファイヤードッグ（暖炉の薪台）		真鍮
クリストファー・ドレッサー	真鍮製燭台（一対）		真鍮
クリストファー・ドレッサー	紅地緑釉壺	1879-82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉球形花生	1892-95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	紅地彩釉壺	1879-82 頃	陶器
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1961	磁器
バーナード・リーチ	鉄絵碗		陶器

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
笠置 季男	躍進	1958（昭和 33）	セメント
●2階展示ロビー			
舟越 保武	少女	1956（昭和 31）	砂岩
北村 四海	井冰鹿の娘	1917（大正 6）	大理石
佐藤 忠良	群馬の人	1952（昭和 27）	ブロンズ
堀内 正和	顔	1955（昭和 30）	鉄、セメント
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ